

六甲オルゴールミュージアム

新収蔵記念特別展「からくり人形～西洋と日本～」

欧州の自動人形と共に、九代玉屋庄兵衛が復元した江戸からくりを展示・実演

六甲山観光株式会社(本社:神戸市 社長:宮西幸治 阪神電気鉄道株式会社 100%出資)が六甲山上で運営する六甲オルゴールミュージアム(博物館相当施設)では、2020年1月6日(月)から3月1日(日)まで、新収蔵記念特別展「からくり人形～西洋と日本～」を開催します。

新収蔵記念特別展「からくり人形～西洋と日本～」概要

六甲オルゴールミュージアムでは、九代玉屋庄兵衛(詳細は2枚目ご参照ください)による江戸からくりを、新たに収蔵品に加えることになりました。これを記念して、新収蔵記念特別展「からくり人形～西洋と日本～」を開催します。

当館では、これまで19世紀後半に欧州で盛んに制作された「自動人形(オートマタ)」を収蔵し、それと比較する形で日本で独自に発展した「江戸からくり」もコレクションしています。両者は非常に似通うところがある一方、まったく正反対の特徴を併せ持っています。本展ではスタッフの解説を聞きながら、これらのからくりの実際の動きをみることができます。

【開催期間】 2020年1月6日(月)～3月1日(日)

休館日:期間中の木曜日

【実演時間】 10:15から16:15の毎時15分頃から
1日7回、各回約15分間

※毎時00分からミュージアム・コンサートを実施。その後半15分でからくりを実演します。
※入館料のみでお楽しみいただけます。

【出展品例】 ・茶運人形(作者不詳、江戸からくり 江戸時代後期、復元:2019年、九代玉屋庄兵衛)
・三番叟(大野弁吉、江戸からくり、江戸時代後期、復元:2017年、九代玉屋庄兵衛)
・エクリヴァン(G・ヴィシー、自動人形、復元:1988年、M・ベルトラン) 他

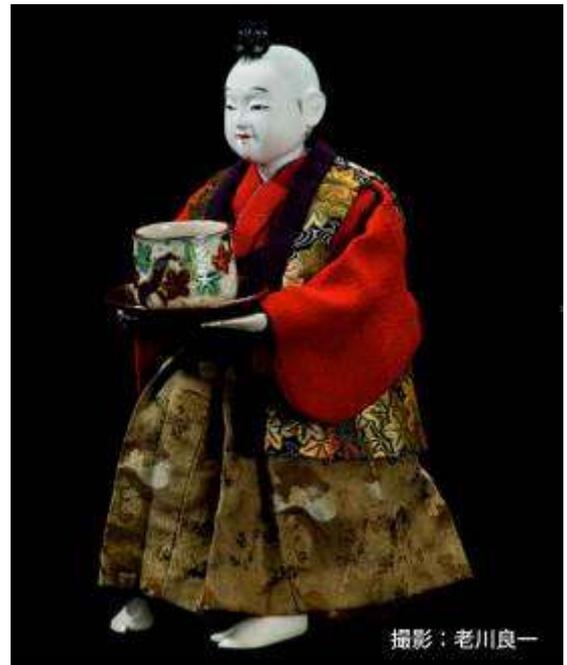
※コンディションにより一部変更の場合があります。

■江戸からくりとは・・・

日本では、17世紀頃から「山車からくり(だしからくり)」が作られていました。これは人が人形を操って動くからくりで、祭礼や縁日などで使われていました。これに対して18世紀末には、井原西鶴が俳句に詠んだ「茶運人形」や田中久重の「弓曳童子」に代表される「座敷からくり(ざしきからくり)」が作られるようになりました。座敷からくりは、人の手を離れて動くからくりで主に江戸時代の大名や豪商などの宴席で楽しまれました。

■自動人形(オートマタ)とは・・・

18世紀に、スイスやフランスでは複雑な動きをするオートマタが作られていました。18世紀末にオルゴールが発明されると、内部にオルゴールが組み込まれるようになり、19世紀後半に最盛期を迎えます。



撮影:老川良一

茶運人形(江戸からくり)
湯呑を運びます。湯呑を取った間は静止し、湯呑が戻された後、再び動き出し、Uターンしてもとの位置まで戻ります。



エクリヴァン(自動人形)
手紙を書く仕草をするピエロが居眠りをします。再び目覚めた後、消えかけたランプに火を灯し直して、手紙を書く仕草を続けます。



